

第81回火山噴火予知連絡会・幹事会議事録

日 時：平成11年5月25日（火）10時30分～12時30分

場 所：気象庁第一会議室

出席者：井田、岡田（弘）、浜口、藤井（敏）、藤井（直）、石原、岡山、早川（代理：文部省）、小宮、宇井

オブザーバー：中辻（国土庁）

事務局：三上、佐久間、佐藤、西脇、碓井

1. 委員の交代および欠席等の報告

気象庁火山課長が濱田から小宮に、気象研究所地震火山研究部長が望月から吉田に、地磁気観測所長が栗原から望月に交代し、委員の交代があった。本日の欠席は渡辺委員。

なお、活火山のワーキンググループの設置についての検討するため宇井委員が出席。

2. 火山資料提供収集システムについて

事務局より火山資料提供収集システムについて説明を行った。FAXによる資料等の一斉送付は、これまでどおり続ける。同システムは、パスワードで保護はしているが、委員部内限りにしたい資料は、その旨を事務局に連絡いただければ、載せないこととする。

3. ワーキンググループ

「活火山ワーキンググループの設置について（案）」を検討し、次の議論をした。

1) ワーキンググループの目的等について。

- ・新ワーキンググループは、その目的と担当事項を明確に定める。但し、その他のことも、必要に応じ適宜取り上げる。
- ・前期の活火山サブグループで未解決となった項目を引き継ぐ。

2) 長期的な活動特性の評価について

- ・長期的な活動特性の評価は、将来、火山の危険度の評価も入ることを念頭に置いて作業をすすめる。
- ・活火山を細かく分類することは、技術的に困難で、社会的にも誤解を与えるので妥当な幅を持った幾つかのグループにまとめることが必要だろう。
- ・気象庁は、活火山の分類を監視体制の内容や規模など、将来計画の基礎資料としたい。
- ・さらに、この分類は、色々なユーザーから長期的な防災対策に広く使われるものとしてほしい。
- ・これまでの気象庁や測地学審議会の火山の分類があるが、火山の活動度や噴火の特徴など火山学の知識を結集し、気象庁、測地学審議会、地方自治体、さらに登山者など、色々な方面で役に立つ火山の分類の集大成が出来るのではないか。

3) 「活動レベル」と「長期的な活動特性の評価」の関係について

- ・「活動レベル」は、現在ごく近い将来の問題で、時間の関数として変化するものである。これに対して、「長期的な活動特性の評価」は、長期的な視点で変わらないような活火山の活動特性の評価と分類である。

4) ワーキンググループの組織構成について。

- ・世話人は、当面、井田会長、宇井委員とし、必要に応じて補充出来る可能性を残す。
- ・メンバーは固定せず、出来るだけ多くの火山噴火予知連絡会委員に適宜参加していただく。

5) 検討のための資料収集体制について

- ・過去の噴火履歴資料は、これまでのワーキンググループで収集しているので、利用できる。但し、追加、再整理は、多くの労力を有すると思われる。
- ・動燃（動力炉・核燃料開発事業団、現：核燃料サイクル開発機構）の2000年レポートは、CD-ROMの形で2000年に公表される予定である。この火山カタログで、ワーキンググループに必要な資料のすべてを満たすことは出来ないが、これを使用すれば、資料収集作業の労力を一部軽減できるだろう。

4. 岩手山の活動状況について

- ・地震活動、地殻変動の状況の変化を中心に議論した。岩手山の全般的な活動状況は、統一見解を出すべき状況にあると考える。